

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400940		
法人名	中村合名会社		
事業所名	ケアガーデンオアシス グループホーム「つきとほし」**ほし**		
所在地	長崎県諫早市福田町2番22号		
自己評価作成日	平成22年 9月18日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(ほし)開設して7年目になりスタッフ全員が初心に戻り、これまで入居者がどのように生活してきたのか、どのようなライフスタイルを大切にしてきたのか、又、どのような趣味・嗜好があるかをもう一度見直し、今まで以上に自分らしい生活を送ってもらえるように取り組んでいます。最近では、入居者全員が揃って外出することができました。5月は菖蒲見物の後にレストランで食事、8月は夢ファームシュシュ(大村市)へ行き、自然の中で食事と季節の果物を食べ、楽しい一時を過ごしました。これからも沢山の笑顔が見られるように一人ひとりを大切にしていきたいと思えます。

(つき)「明るい笑顔でほのぼのとありのままの私とあなたで過ごしましょう」の理念のもと、その人らしさを大切に、お一人おひとりに寄り添えるような個別のケアを目指しています。明るい方・歌が好きな方・踊りが上手な方が多くいらっしゃることで音楽がかかるととても賑やかになり、活気に溢れています。又、入居者様に負けないくらい明るくてノリの良いスタッフが多いので、毎日笑い声が響き渡っています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年 10月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部にあり、交通の利便性がとても良く、家族の面会にも繋がっている。利用者は地域の方が多く、家族や知人から様々な差し入れがあり、交流も盛んに行われている。職員全員が日々利用者を支援する一方、利用者家族との信頼関係も築かれている。年1回の市高齢者作品展に向けて、時間をかけた取り組みや、生活の継続支援として、買い物や配膳、片付け等、利用者の楽しみの俳句作りも掲示して励まされている。身体機能の取り組みも、日常生活の中から一人ひとりに合った方法で工夫されている。職員相互のチームワークと家庭的な温かいホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を取り入れた理念として「住み慣れた街の中でやさしい人達と自分のペースでゆっくりと笑顔で元気に人生を楽しみましょう」を全員で意識し、取り組んでいる。	住み慣れた地域との交流を大切に、つきとほしそれぞれのユニットで理念を掲げ、その人らしく一人ひとりが元気で笑顔が絶えないときを過ごして頂けるよう支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・学校から来てくださり、交流を楽しまれている。散歩・買い物などにも出かけ、地域の方と挨拶を交わしている。町内会にも参加している。	保育園児慰問、学生のボランティアや職場体験等を積極的に受け入れている。町内会に加入、行事にも参加され地域との交流を深め、買い物、散歩時も声をかけあい地域に溶け込んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム交流会・運営推進会議などに参加し、認知症についての勉強、又、地域の方にも理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の貴重な意見を聞かせて頂く事ができ、入居者へのサービス向上につなげている。又、こちらからも取り組みについて報告し、意見を頂いている。	会議は、2ヶ月に1回開催し、ホームの活動内容、利用者の現況報告、事故防止についての取り組み等実技を交え、家族より献立の参考資料を頂きより良いサービスの提供に繋げている。	会議内容は参加者のみの郵送である。会議内容の意見・質問等を共有する為に、他の家族にも、会議の内容等を報告することが望まれる。
5	(4)	94 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書提出時など解らない時は、相談させて頂きながら情報を共有して頂けるように連携を図っている。認定更新時などに、市の担当者へ入居者の様子など伝えている。	諫早市福祉高齢介護課より2名、運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状を把握し意見・助言等、情報の共有に努める事に意欲的である。又、介護相談員の受け入れを検討されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「いつ帰る、何処にも行かんとね」と頻回に尋ねられる入居者に、気づかないうちに否定した言葉を使っているときがある。その人らしく自由に暮らせるように、身体拘束に関する勉強をしながら取り組んでいきたい。	安全面では慎重にならざるを得ないが、外出の様子があれば、職員と一緒に同行するなどの対応をされている。家族が、離床センサーをベットに取り付けられ利用者の安全に繋がっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で虐待とはの意見を出し合い、対応の不適切はないかなど話し合う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度がある事は知っているが、内容などについてはまだ理解していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。利用料金・事業所の対応可能な範囲・緊急時の対応など納得を得られるような説明に努めている。又、解りやすいように印刷物を用意し、渡している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・要望・苦情に対しては、その都度話し合い、改善に向けて取り組んでいる。訪問時は、ご家族にこちらから話しかけるように努め、話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族からの要望・苦情などを記入するノートを用意した。	家族の面会の時、日常の様子を話しながら、意見や要望が遠慮無く言える雰囲気作りをされており、面会時間を越えることもある。気軽に家族が面会に来られ、笑顔で職員が対応されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議において、意見・要望などないか問いかけるように心掛けている。悩み・苦情などは個別面談で話し合っている。	職員相互に意見を出し合いながらサービスの向上に取り組んでいる。連絡協議会の研修や自主研修に参加され、職員の信頼関係のもと意見が反映されるよう努められている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断を実施している。休憩室はあるが、勤務中に休憩する時間は取れていない。労働時間超過の消化ができていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会を受講できるように心掛けている。受講した者は資料などを整理し、いつでも閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月定例で実施されるグループホーム連絡協議会に出席し、他のグループホームとの交流・意見交換などを通じて、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から要望・不安など聞き取ることができない事が多く、家族から生活暦を尋ねている。センター方式の一部を渡し、記入して頂くようお願いしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経過を聞くことに努め、これからどのような生活を送ってほしいのかを尋ね、傾聴している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを受け入れ、すぐに実行できる事と話し合いを設けなければならない事も含め、柔軟な対応を行うように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り・箱作りなど得意分野で力を発揮してもらい、役立っている事を感謝の言葉で伝え、お互いに支えあえる関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子・ホームでの行事など、家族の訪問時・電話などで伝え、安心して頂けるように心掛けている。遠方の家族には電話で本人の声を聞いて頂けるように支援している。毎月ほし新聞を発行し、様子を報告できるようになった。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす知人・友人達と食事やゲームなどを楽しむ交流が今も続いており、今後も継続できるように支援している。	地域の友人・知人が気軽に遊びに来られる。老人会やサロンに月1回は外出され、独居の方々が集う場として順番に居室で茶話会をされている。墓参りや外泊など家族の協力がえられている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性は全職員が把握している。入居者同士の関係がうまくいくようにゲーム・食事など楽しく過ごせる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在も退去された家族の方からおやつにと果物を頂いたり、利用中の思い出話を懐かしんだり、良い関係が築けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者が何でも気楽に話せる雰囲気作りに努め、希望・意向を把握できるよう取り組んでいる。	日頃の会話の中で利用者の言葉、表情、態度等感じながら希望や意向を拾い挙げ、連絡ノートやミーティングで全職員が共有し確認している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から生活歴を尋ねるようにし、又、センター方式の一部を記入して頂き把握するように努めている。又、地域との係わりも途絶えないようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リズムを大切に、発する言葉の強弱によっても精神状態を把握することができている。又、その日の様子をケース記録に記入している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望・意見を聞き、今後のケアに向け、全職員で話し合いながら介護計画を作成している。モニタリングは、毎月スタッフ会議の中で行っている。	サービス目標を評価して、利用者の下肢筋力を強化する為に歩行訓練を実践する等、会議で話し合い現状に即した見直しもされている。家族の理解と、利用者本位の介護計画を検討されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア日誌・ケース記録があり、その日の様子を記録している。又、申し送り帳があり、必ず勤務前には目を通し、確認のため押印するように義務付けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	契約時に、通院は家族にお願いしているが、その時の状況により付き添ったり、受診対応も含め、安心していただけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容室・かかりつけの病院など、入居者が安心して利用できるように支援している。運営推進会議では地域の方との情報交換もあり、参考になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更はなく、今までのかかりつけ医を受診している。受診は家族にお願いしているが、都合によっては職員が代行するようにしている。	かかりつけ医の変更はほとんどなく、受診は、主に家族が通院介助をされている。往診も依頼できるが、職員が同行する場合は、勤務体制を考慮して受診日を変更後に対応されている。	かかりつけの歯科医はあるが、定期的に来て頂ける歯科衛生士を依頼して、口腔ケアの取り組みにも期待したい。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化に早く気付くように心掛けている。又、看護師がいないため、状態に変化があった時は主治医に指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供を行い、又、入院によるダメージを少しでも防ぐため、ホームでの対応可能段階で早期退院ができるように医療との連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所が対応できる重度化についての説明を行っている。事業所としてはターミナルケアは行っていない。	入所時に、家族へターミナルケアの取り組みは説明している。可能な限りホームで過ごして頂き、医療が継続して必要なときは、家族と話し合い医療連携の対応への支援をされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成し周知徹底は図っているが、勉強会・訓練などは定期的には実施していないため、必要な時に対応できるか不安もある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成はできている。地域消防署との協力体制はとれている。3/29に消防立会いのもと、避難訓練を行った。今後も定期的な避難訓練の実施に取り組んでいく。非常用備品はいつでも持ち出せる場所に準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いに注意し、本人の心を傷つけないように努めている。トイレ誘導もさりげなく、本人のそばで声をかけるように配慮している。	常に、人格を尊重した声かけに心がけ、羞恥心やプライドを大切にしたい係わりに努められている。馴れ馴れしい言葉になる時は、管理者や職員がお互い注意し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けを多くすることで、話しやすい場面作りができ、本人の思いや希望なども表現できるように取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせた対応が不十分な時もある。本人の気持ちを大切に、希望することに少しでも近づけるように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣類は本人に任せているが、外出着の時は一緒に選んだりお手伝いをしている。美容室は本人の行きつけを利用し、カットも本人の希望で決定して頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える前に、入居者の嗜好を尋ねたり、食事は職員も一緒に会話をしながら楽しんでいる。季節の野菜・作り方などを教えて頂いている。又、盛り付け、後片付けなども一緒に行っている。	和やかな会話のなか楽しい食事風景である。買い物も利用者と出かけ旬の食材を取り入れている。梅干し、梅酒作りも利用者と一緒に作り、おやつに梅酒ゼリーを作り、楽しまれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や熱発などにより水分摂取を行うときも、個別のケア日誌の中に記入し、把握できるようにしている。飲み込みが悪い状態の時はとろみを付けたり刻んだり食べやすい工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。一人でできる方は磨き残しがないか見守り、できない方は一緒に言葉を掛けながら行っている。食事前には嚥下体操を行い、誤嚥防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を参考に、トイレ誘導を行っている。又、パッド類も本人に合うように検討し、羞恥心を傷つけないように配慮している。	利用者全員がトイレで排泄できるよう支援しており、布パンツ若しくは尿とりパットを使用している。排泄パターンを把握しており見守りながら、プライドを傷つけないようにさりげない対応をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはすぐに薬に頼らず、繊維質の多い食材・水分摂取・運動などで自然排便につながるよう取り組んでいる。主治医との相談で内服薬が処方される時もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後と入浴することができ、本人の希望する時に入浴して頂いている。入浴剤で色・香りを楽しんでもらえるように工夫している。	入浴拒否をされる利用者には、カレンダーにシールを貼って入浴日を納得して楽しめるように、入浴剤を入れたりして湯上りの「気持ちよかった」の一言が職員の喜びにも繋がっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムの中で、日中の傾眠を少なくし、適度の運動で夜間良眠できるように支援している。又、空腹で目覚められる時もあり、はちみつ湯、バナナなど提供することで良眠できる事もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースにセットしており、毎回、名前・日付を確認し手渡している。処方箋も見やすい所に貼っており、副作用なども確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人ができる事を把握しお願いすることで、自分の役割として力を発揮することができ、自信につながっている。職員は感謝の気持ちを伝えるように統一している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出支援は年間の行事として行っているが、一人ひとりが希望する場所への外出は、まだ不十分だと思う。今後は家族や地域の人達の力を借りながら、希望に沿った外出ができるよう取り組んでいきたい。	年間行事として外食や花見等実施されている。諫早市高齢者作品展に出品する為に、製作した作品の展示品を見学予定である。利用者一人ひとりの外出支援は家族の協力のもとに行われている。	五感刺激の機会として、その日の希望で利用者一人ひとりが行きたい場所への、外出を楽しめる支援の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方はホームで預かっており、買い物をする時にその中で支払うようにしている。手元に持っている方は自分で財布からお金を出し、買い物した実感を味わって頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から荷物が届いたり手紙が来たりすると、電話をかけて御礼を伝えたり昔話をされたりしている。手紙を書かれる方は一緒にポストまで行き、投函できるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには季節の花を飾り、季節感を取り入れている。室温・音量なども入居者に尋ねるように心掛け、快適に過ごせるよう取り組んでいる。	玄関を入ると季節の花や野菜など飾られているが、違った雰囲気のある共用空間で利用者はゆったりと過ごされている。乾燥防止に職員が手作りのタオルを掛けて、快適に心地よく過ごせるよう環境整備にも工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい時は居室に行かれたり、リビングでは皆さんと食事やゲームを楽しまれている。和室にはソファやテレビがあり、落ち着いてくつろげる場所がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた品物・家具などを持ち込んで頂き、居心地の良いように本人・家族と相談しながら居室作りを行っている。	職員と家族が話し合い、馴染みのある使い慣れた家具や装飾品を持ち込まれており、家族の写真も飾られている。利用者が仏壇に花や水をあげられている。自宅と変わりなく過ごせる個性ある居室作りをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口にはネームプレートを下げ、トイレ・洗面所には解りやすいように記入した紙を貼っている。又、押し車・車椅子の使用もあり、物の配置にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400940		
法人名	中村合名会社		
事業所名	ケアガーデンオアシス グループホーム「つきとほし」**つき**		
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町2番22号		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい笑顔でほのぼのと、ありのままの私とあなたで過ごしましょう」を基本理念とし、その人らしさを失わず、その人らしい生活が地域の中で送れるよう取り組んでいる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ、近隣の方々と挨拶を交わし、顔馴染みの関係を築けるよう努めている。小・中・高校生がボランティアとして活動してくれるなど交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れは積極的に行っているが、地域の人々に向けての活動や支援は十分に出来ているとは言えない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況や行事などを報告し、毎回議題を決めて外部の方々の率直な意見や感想、提案を頂くようにしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護保険の申請時等に相談や情報交換をするなど連携を深めるよう努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人で外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく一緒に散歩したりしている。日々のケアにおいては、言葉による拘束をしないよう努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時など、拘束や虐待についての意識付けを再確認し防止に努めている。特に入居者に対する言葉掛けには注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を作成し、職員の勉強会を行い支援できる体制づくりに努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には対応可能な範囲についての説明も含め、事業所のケアに関する取り組みや緊急時の対応など時間をとり慎重に説明し納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には担当者会議で意見や要望を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。又、面会時にも意見や要望など気軽に話してもらえるような対応を心掛けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見や要望を聞くように心掛け、スタッフ会議等で一緒に話し合い調整していくよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には役割や担当を決め責任を持って取り組んでもらっている。休憩室はあるが勤務時間中には十分な活用はなされていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会・勉強会にはなるべく多くのスタッフが受講できるよう努めている。スタッフ会議で研修内容を報告してもらい、資料を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月実施されるグループホーム連絡協議会に出席し他のグループホームとの交流や意見交換などを通じて質の向上や意識付けに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族・担当ケアマネから十分な情報を提供してもらい、全ての職員が把握するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学に来所していただき、入居者の状況や家族からの要望等聞き安心して利用していただけるよう話し合いの場を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の意見や要望を聞き改善に向けた支援の提案や相談を行い、必要に応じて他のサービス機関の紹介を行うなどの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが沢山あり生活の知恵や生活文化の大事さを教えてもらうような場面作りや声掛けに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子や行事報告などをすると共に、家族と職員がより良いか関係を築けるよう心掛けている。毎月のお便りにも担当者より一言メッセージを添えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠距離の方にはハガキや写真を送ったり、時には電話をかけて話が出来るよう支援をしている。又親戚や知人が気軽に面会に来れる様な雰囲気作りに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の係わりの中でトラブルが生じた場合は、お互いの関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後面会に行くこともあるが、一部の方には過ぎず頻回ではない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の言葉・表情・態度に気をつけ、思いを把握できるように努めている。本人の思いや希望は毎日の申し送りを利用して、職員全員が共有し確認しあっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族を中心とした情報提供で把握している。本人との会話の中で知り得た情報や生活歴を全職員で把握し、より良いコミュニケーションがとれるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に目配りし心身の様子観察に心掛けている。少しの変化も見逃すことの無い様に日々健康管理と状態把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の係わり合いの中で思いや意見を聞き反映させるよう努めている。ケアプランの達成状況を毎月まとめてスタッフ会議で発表し次のプランの見直しに繋げていくよう取り組んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の介護記録にサービスの実施や生活状態の様子を的確に記入し全職員が確認できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に関しては、本人や家族の状態に応じて受診や通院同行等臨機応変な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティア等、協力して頂き交流の場を設けている。今後は公民館や老人会等の行事に参加できるように支援していきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・心療内科などそれぞれかかりつけの医院があり、基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。受診や往診の結果は都度家族に連絡報告している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が居ないため状態の変化がみられた時には、主治医に連絡、報告し指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提出している。職員が見舞いに行く等し、家族とも回復状況を情報交換しながら速やかな退院に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と今後本人にとってどうするのが一番いいか話し合いの場を持ち、家族の支えになるように努めている。重度化した場合、事業所ではどこまでの支援が出来るか書面に作成し説明した上で理解を得ている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人ひとりに対応する急変時のマニュアルを作成している。緊急連絡のマニュアルも目に付く所に貼り日頃より意識するよう努めている。全ての職員は応急手当の研修会に参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での呼びかけにより地域との協力体制は出来ている。消防署立会いの消火避難訓練は実施したが、事業所での定期的な訓練は実施出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応を心掛けている。特にトイレ誘導時や失禁時には他の入居者にわからないよう声かけし対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに判りやすい声かけで対応して、出来るだけ自己決定が出来るように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、一人ひとりのペースや体調に合わせ、出来るだけ本人の希望に添えるような個別の対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんに来てもらったり家族と行きつけの美容院へ外出される方もおられ、本人の希望に沿った支援を心掛けている。朝の更衣は介助が必要な方には好みの服を選んでもらい本人の希望に沿えるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・後片付けは職員と一緒にいき、食事は同じテーブルで楽しく頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。特に行事時のメニューは入居者と相談しながら決めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量は配膳の時に加減し、食後の摂取量のチェックをしている。夜間は水筒やペットボトルに麦茶を入れて居室でも補給できるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し、声かけをしながら口腔ケアをしていただいている。口腔内の痛みや訴えがある時は、必ず確認し状態によっては歯科への受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人ひとりのサイクルを把握するよう努めている。トイレ誘導時には本人のプライドを損なわないように配慮している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事に気をつけ、ラジオ体操やおやつ前下肢筋力低下防止の体操や廊下での歩行等運動への働きかけに取り組んでいる。又、十分な水分摂取に気をつけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はほぼ毎日設け一人ひとりの希望に合わせていつでも入浴できるように支援している。入浴嫌いの方に関しては、声かけや入浴時間のタイミングを大切にしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に沿って安心して休息・就寝できるよう支援している。寝付けない時には暖かい飲み物を提供したり、リビングで暫く一緒に過ごす等安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬リスト表を作成し全職員が把握できるようしている。投薬時には他職員や本人に声かけ確認を徹底し、飲み込まれたかの確認・チェックを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で職員と一緒に野菜を刻んだり盛り付けをしたり洗濯物を畳んだりして頂いている。短歌や貼り絵などの作品を飾ったり、花を活けてもらったりして楽しみごとを増やせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見見物には毎月出掛けてはいるが日常的な外出支援は十分に出来ているとは言えない。歩行が不安定な方や車椅子使用の方の外出支援に力を入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がホーム側で管理しているが、お金の管理が出来る方は家族の了解を得た上で所持してもらっている。おやつやノート・ペン等の買い物は本人の希望に添えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名ではあるが年賀状や暑中見舞いを自筆で一言添えて書いて頂いている。遠方の家族からハガキや荷物が届いた時には電話をかけ話をさせていただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた折り紙などの作品を入居者と一緒に作成し、リビングや居室に飾ったりして季節感を感じて頂けるように努めている。季節の花や野菜もテーブルに飾り目で見ても楽しめるよう支援している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室は足を伸ばしてゆったりとくつろげる様にしている。リビングにはソファを置き廊下にも椅子を配置するなどしてちょっと一息つけるような工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みの物を生かした居室の飾りつけ・家具の配置などは本人と家族中心にさせていただき、本人が心地よく過ごせるようにして頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」や「洗面所」などわかり易い様に大きな表示をしている。車椅子使用の方にはタンスの位置に配慮したり身体状況に合わせ、手すりの増設やドアの持ち手の取り付けを実施している。		